

種 名 アセビ

万葉時代の呼名 あせび・馬酔木



詠人大来皇女

万葉集卷二 一六六

磯の上に生ふる馬酔木を手折らめど
見すべき君がありと言はなみに

【現代訳】

岸边に咲いている馬酔木の花を手折って見せようと思うけれど、まず見せたいあなたはもういない

【アシの解説】 ツツジ科の低木

本州、四国、九州の山地に自生する常緑樹。やや乾燥した環境を好み、樹高は1.5mから4mほどである。早春になると枝先に複総状の花序を垂らし、多くの白いつぼ状の花をつける。馬酔木の名は、馬が葉を食べれば苦しむという所からついた名前であるという。多くの草食ほ乳類は食べるのを避け、食べ残される。そのため、アセビがやたら多い地域は、草食獣による食害が多いことを疑うこともできる。アセビは庭園樹、公園樹として好んで植栽される外、花もの盆栽等としても利用される。